

100年先に伝えていく毛呂山の歴史遺産

# 鎌倉街道

## 第3回 鎌倉街道の景観を守るボランティア事業

毛呂山町歴史民俗資料館のすぐ西側を南北に縦貫する鎌倉街道の沿線には、鎌倉街道掘割遺構とともに美しい



平成15年頃は周辺に篠竹が生い茂っていた鎌倉街道

平地林が残っています。

林の中には古墳が点在し、鎌倉街道と古墳群が一望できる「歴史の森」ともいえる場所です。

このような鎌倉街道と平地林の景観は最初から整っていたわけではありません。平成15年度から地権者の方々・ボランティア・歴史民俗資料館が協力して、鎌倉街道の除草・清掃作業を行う「景観保全事業」を実施してきました。

その発起人である小室紘一さんと小室孝さんのお二人にそれぞれ鎌倉街道への思いをお伺いしました。



小室 孝さん



小室 紘一さん

―平成15年当時の鎌倉街道周辺の状況はどうでしたか？

小室（紘） そのころの鎌倉街道沿いの掘割の林の中は一面、背よりも高

い篠竹だらけで中に古墳があることもわからない状況でした。

小室（孝） 当時とはとにかく篠竹が生い茂っていて大変でした。毛呂山特別支援学校と大類グラウンドの一部の敷地は桑原と田んぼだったんですよ。

―地権者の皆さんは鎌倉街道をどのようにしたいと思っていたのですか？

小室（紘） やはり、鎌倉街道は町の文化遺産だからきれいにしたいという気持ちだったのではないのでしょうか。

小室（孝） 昔から遺跡があることは地元の人たちは知っていました。でも、それをどう守るかということがまだはいかなかったです。当時、町教育委員会が景観保全に前向きな姿勢を取ってくれたので地権者もやる気になったと思います。

―15年間、景観保全事業を続けてみていかがですか。

小室（紘） すっかりきれいになり、見やすくなった状態が継続できていてとても嬉しいですね。

小室（孝） きれいにした後には気持ちがいいですね。他所にも自慢できる遺跡です。

―鎌倉街道の将来は？

小室（紘） やはり、きれいにしてくるの人の見てもらうのがいいのではないのでしょうか。自然が豊富な林で

すから、自然を保護したまま鎌倉街道や古墳とともに残していけたらいいと思います。

小室（孝） 紅葉の時期も新緑の時期も美しい景観を見ながら鎌倉街道を散歩してほしい。そして、ここが鎌倉街道だとわかるような整備をしてほしいです。

お二人とも15年にわたって鎌倉街道周辺の景観保全に携わってこられたのは鎌倉街道が地域の誇りであり、財産であると感じていることが大きな理由だったようです。鎌倉街道を今後も重要な文化財として保護することが町の大事な役割です。



## 町の無料相談

相談種類		日にち	時間	相談場所	申込み・問合せ
法律相談	弁護士	7/9(火)、22(月)	13:30～16:00	役場会議室	役場総務課☎313 (要予約)
	行政書士	7/17(水)	10:00～15:00	役場会議室	役場総務課☎313
人権・行政相談		7/11(木)	13:30～16:00	役場会議室	役場総務課☎313
成人健康相談		7/9(火)	9:00～12:00	保健センター	保健センター☎049(294)5511
電話健康相談		平日	9:00～17:00	保健センター☎049(294)5511	
育児ほっと相談室		7/1(月)	10:00～11:45	保健センター☎049(294)5511	
もの忘れ相談会		毎月第3木曜日	10:00～12:00	中央公民館	地域包括支援センター☎049(295)2112 ㊟126
子育て相談 なんでも話してみよう	7/12(金)	10:00～11:00	役場相談室	子育て支援センター	
	7/26(金)		子育て支援センター	☎049(294)4820	
教育相談		平日	10:00～16:30	教育センター☎049(295)2525 (電話相談可)	
心配ごと相談		毎週水曜日	10:00～12:00	社会福祉協議会(ウイズもろやま内)☎049(295)3111	
消費生活相談		毎週火曜日	10:00～15:00	役場相談室	役場産業振興課☎214
生活困窮者自立相談 ※生活保護受給者以外		平日	8:30～17:00	アスポーツ相談支援センター埼玉西部毛呂山出張所(ウイズもろやま内)☎080-2274-1445	



### 新規指定文化財の紹介 いづもいわいじんじやもんじよ 出雲伊波比神社文書

毛呂山町の中央に位置する出雲伊波比神社には、中世から近代にかけての歴史を伝える古文書や奉納額、石碑などが数多く伝わっています。戦国時代の北条氏と豊臣氏の争乱を伝える「小田原北条氏の鐘證文」や明治期に盛んだった剣術や弓術奉納の様子を記した「武道奉納額」、郷土の偉人権田直助が記した「出雲伊波比神社社号碑」や近代産業の父、渋沢栄一が記した「臥龍山公園之碑」など、毛呂山の歴史に深く関わる一品ばかりです。

平成30年度、出雲伊波比神社に保管されていた江戸時代から昭和時代にかけての古文書86点が、新たに毛呂山町指定文化財に指定されました。

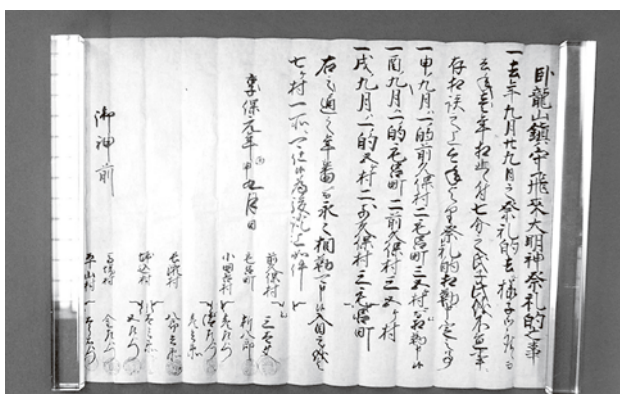
指定を受けた多くの古文書のなかでも注目されるのが、江戸時代の流鏝馬の決まりごとを記した古文書です。

例えば、元禄15年(1702)に記された古文書には、流鏝馬が八幡宮では旧暦の8月15日(現在の9月上旬)に、現在の本殿にあたる飛来大明神では旧暦の9月29日(現在の11月

中旬)にそれぞれ奉納されていたことが記されており、現在行われている流鏝馬とは時期が異なっていたことがわかります。

また、享保元年(1716)に流鏝馬の当番について神前で定めたことを記した古文書には、一の馬、二の馬、三の馬を出す村の順番を現在のように年ごとに輪番で回す取り決めが記されており、江戸時代に流鏝馬が地域の祭りとして整えられていったことが伺えます。

出雲伊波比神社の流鏝馬は、古くから毛呂郷七カ村の祭りとして、地域の重要な行事に位置づけられていましたが、江戸時代の流鏝馬の様子を知ることが大変難しいことです。出雲伊波比神社に伝わる古文書は、謎の多い江戸時代の流鏝馬の一端を記した貴重な古文書なのです。



祭馬を出す輪番を取り決めた享保元年の古文書  
(出雲伊波比神社蔵)